うちの近所コレイチ

わが町 自慢紹介 37

浪曲の歴史を伝え 夏には「浪曲まつり」も

二代目・広沢寅吉が建立 浪曲のルーツ「藤原澄憲碑」

地下鉄の大阪港駅を降り南に歩くと、真言宗の寺、釈迦院があります。門をくぐってすぐ右側に「浪曲塔」があります。どうしてこんなところに…と調べてみました。

平安時代、社会教化を目的として祭文（さいもん）・長歌連（現在の浪曲）を世に広めた、浪曲の元祖「少納言藤原澄憲碑」を関西浪曲界の元締・二代目広沢寅吉が1917（大正6）年に建立したからとのことです。当時、広沢寅吉は大阪港千舟橋に住んでおり、港湾労働者の憩いの場として、「築港廣澤館」を1914（大正3）年に自宅敷地に建設し、浪曲が大いに栄えたといわれています。

戦災で焼失も再建 地域に根づく「浪曲まつり」

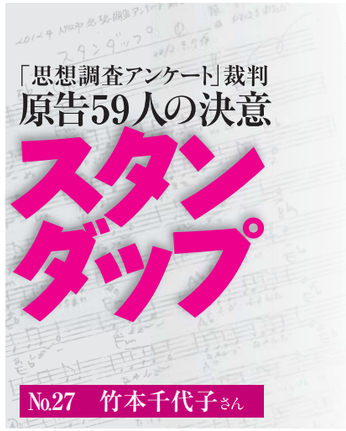
大阪大空襲において、釈迦院もろとも「少納言藤原澄憲碑」も無残な姿になりました。しかし、1954（昭和29）年に浪曲親友協会に所属の多数の浪曲師や曲師の寄付により再建・建立されました。

この「浪曲塔」には、明治初期に浪曲を大衆化した京山恭安斎、桃中軒雲右衛門、二世吉田奈良丸など、浪曲界で活躍された浪曲師が合祀（ごうし）されています。毎年8月30日には「浪曲まつり」が開かれ、地域に根づいています。

敷地内には「大阪港湾労働殉職者の碑」があります

Culture Navi かるちゃーなび

これはおかしい　黙ってたらあかん



生きがい否定する「アンケート」

2012年２月、「思想調査アンケート」に「業務命令」「市長のサイン」「処分の対象」「アンケートを提出するか、しないか」…職場は騒然となりました。私は、提出しないと決めたものの、「これからどうなるのか。処分って何？」と不安は増すばかりでした。大阪市で「いい保育がしたい」「子どもたちの生き生きした笑顔がみたい」と市労組に入り、仲間と一緒に学習し、生きがいを感じて働いてきたのにと、力が抜ける思いでした。

「仲間がいるから」と原告に

「これはおかしい。黙ってたらあかん」。裁判で闘うことになった時、仲間と一緒に迷わず原告に。裁判するとはどんなことかもわからず飛び込みました。裁判で勝利するのは容易ではないけれど、今、少しずつ学習し、行動を通して多くの支援してくれる人や、仲間がいることに勇気をもらっています。保育士として子どもたちに「自分の思っていることは、はっきり言っていいんだよ」「仲間は大事だよ」と笑顔で伝えたいと思います。

「スタンダップ」はシンガーソングライターのかわさきゆたかさんが作曲した「思想調査アンケート裁判」の応援歌です。

憲法川柳

大阪自治労連結成25周年記念

国民の願いを乗せて平和へと

（大阪府職労・辻本　智子さん）

解釈に要らぬ余計な「国語力」

（堺市職労・梶川　明久さん）

このシネマがえいが

©2015「ソロモンの偽証」製作委員会

「ソロモンの偽証」

隠された真相を暴くために 校内裁判、開廷

直木賞ほか多数の文学賞を受賞するベストセラー作家、宮部みゆきのミステリーの映画化。監督は「八日目の蝉」などの成島出監督。

バブル経済が終焉を迎えつつあった1990年12月25日のクリスマスの朝、城東第三中学校の校庭で２年A組の男子生徒・柏木卓也が屋上から転落し、遺体となって発見されます。警察は自殺と断定しますが、さまざまな疑惑や推測が飛び交い、やがて札付きの不良生徒として知られる大出俊次を名指しした殺人の告発状が届き、事態は混沌としていきます。隠された真相を暴くために、自分たちの手で真実をつかもうと学校内裁判の開廷を決意します。

この映画のために1万人のオーディションが行われ、２年A組の33人が選ばれました。その中で、遺体の第一発見者で２年A組のクラス委員を務めていた主演の藤野涼子役は、監督には「目力がすごい」と言わしめた新人で、この作品の役名を芸名としました。監督は「映画の中で大きく成長した子どもたちを見てほしい」と語っています。この映画の舞台となる学校は、なんと堺市立大浜中学校とはびっくり。

前篇は3月7日から、後篇は4月11日から全国ロードショー。事業本部を通じて前篇・後篇共通のチケットを斡旋していますので、組合におたずねください。

心に響くこのひとこと

過ちがないことではなく
過ちを改めることを重んじよ

吉田　松陰

1830（文政13）年、長州藩士の次男として生まれ、幼少から叔父が開いた松下村塾で指導を受けていました。アヘン戦争で清がイギリスに敗戦したことを知ると、今まで学んできた学問は通用しないことを痛感し、西洋兵学を学びます。西洋の先進文明に心を打たれて外国留学を決意するも失敗し、長州へ檻送され幽囚され、松下村塾を開塾。そこで久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文、山縣有朋などを教育しました。後に討幕を計画するも、捕えられ幽囚となり、1859（安政５）年に斬刑に処されました。享年29歳。